

# つながる力

《No.9》



## 6.10「辺野古埋立てNO！共謀罪法案NO！」 怒りの市民 18,000 人、国会を包囲！



17.6.11 朝日新聞東京本社 WEB 版より

<http://www.asahi.com/articles/ASK6B5JLHK6BUTIL019.html>

国会前で「辺野古埋め立てNO」「共謀罪NO」とメッセージを掲げる人たち  
=10 日午後3時41分、東京都千代田区永田町、山本裕之撮影

辺野古土砂採取計画撤回を求める署名  
第三次提出にむけ  
さらに署名を進めよう！ご協力下さい！

- ・西日本から土砂とケーソンの搬出を止めれば、辺野古は埋立てられない！
- ・生物多様性の豊かな辺野古・大浦湾の埋立ては、生物多様性国家戦略や地方戦略に反する！
- ・土砂に混入する特定外来生物が、沖縄本島の生態系を壊滅的に破壊する！
- ・搬出地でも採石に伴う自然・景観の破壊が進んでいる！
- ・奄美ではすでに、海に土砂が流入し、へばりつき、サンゴ礁は壊滅的状态。
- ・辺野古の埋立てをやめ、ジュゴンやサンゴのための「海洋保護区」にせよ！
- ・一粒たりとも故郷の土砂を戦争に使わせない！
- ・西日本からの辺野古埋立て用土砂搬出を止めよう！

### —目次—

- 《全国総会》総会の報告/松本宣崇・・・2～4 ページ
- 《全国総会》闘いの根拠を明確にした学習交流集会/生駒研二・・・5 ページ
- 《全国総会》門司の採石場視察報告/大嶽弥生・・・6 ページ
- 《今治》山城博治さん、今治で講演/阿部悦子・・・7 ページ
- 《熊本》御所浦の問題は不知火海(熊本県)全体の問題だ/生駒研二・・・8 ページ
- 《環瀬戸内海会議》第28回総会・黒髪島視察/松本宣崇・・・9 ページ
- 《沖縄》7.14～15 沖縄連続学習会・・・10 ページ
- 《沖縄からの便り・その5》行き詰まり焦る政府/浦島悦子・・・11 ページ
- 《インフォメーション》辺野古のケーソンつくるな・三重県民集会・・・12 ページ

《2017年5月27日・第4回総会 in 北九州》  
**辺野古土砂全協第4回総会報告**

辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会事務局長 松本宣崇



総会では「時間内に終わるのか」と心配になるほど、次から次に発言が続きました。

辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会（以下、辺野古土砂全協）第4回総会が5月27日、北九州市で開催されました。地元・熊本はもとより、北は埼玉、南は沖縄までオブザーバー参加を含め13都府県から40名余りが参加しました。

総会冒頭、沖縄から、埋立て工事が強行されたといえ、「セレモニー」にすぎず、本格的な埋め立て工事ではないと報告され、まだまだ辺野古埋立てをストップできる思いをさらに強くしました。

外来種の持ち出し・持ち込みを止めることを共通課題とし、また昨年4月に公表された「生物多様性の観点から重要度の高い海域（以下、重要海域）」には、土砂供給予定地が面する海域の6割強が含まれていることに踏まえ、土砂搬出に高いハードルを設けていくよう、活発な議論が交わされました。

## 1 対政府、とりわけ沖縄防衛局への働きかけ

生物多様性国家戦略に即して外来種持ち込みを防止することは、政府の責務であるが、担保できるのか。土砂供給業者との契約が未決定の現状を踏まえ、契約をさせない、または遅らせるためにあらゆる手段を講じることを当面の目標とする。

特定外来生物混入・移動に対する対策、重要海域の保全の在り方について追及する。

防衛省に設置された環境監視等委員会の助言・指導を得るといって、環境監視等委員会には、外来種防止対策の諮問もされておらず、全く議論されていない。

環境監視等委員会にも公開質問状を提出する。  
論点として

a) 特定外来生物混入の調査は誰が行うのか、その信頼性をどう担保するのか。

奄美での沖縄県による立ち入り調査の結果からすると、岩ズリ置き場からは、特定外来生物が発見される可能性は高い。

環境監視等委員会には、購入業者が決まり次第、契約前に購入予定の岩ズリ保管現場の特定外来生物に関する詳細調査を実施し、その有無を確認するよう求める。その際、保存場所における調査は第三者の専門家ないし調査機関によるよう求める。業者に任せることは安易である。

外来生物が発見された場合、それへの対応方法を事前に立案し、対処する。本来の目的に即し、その岩ズリは使用しないことにすべきである。

b) 2016.9.1 IUCN 国際自然保護連合ハワイ会議決議「島嶼生態系への外来種の侵入経路管理の強化」について日本政府は棄権した。

生物多様性国家戦略からすれば、日本政府は当然受け入れるべき勧告ではないのか？

c) 調査手法、調査体制を明らかにせず土砂購入・搬送に予算執行しないよう求める。

## 2 対沖縄県、沖縄県議会に対する働きかけ

沖縄県の外来生物侵入防止条例（以下、沖縄県条例）の実効性を確保するため、沖縄県・同県議会に対し条例改正を求める。例えば、届け出制ではなく許可制へ。違反には罰則規定を。搬入届け

出を現行「90 日前」より長くする等、改正すべき点と提起し、議論の場を設けていくことにする。

自治体の広域連携として、沖縄県が搬出県に対し協力要請を行うよう求め、土砂全協は、その要請を踏まえ、各県への要請や交渉を進めていく。

### 3 持ち出し県、及び地域における取組み。

搬出地のある県では、地元からの採石反対・搬出反対の運動を強めていくことが求められる。

特に外来種持ち出しに関わって、沖縄県条例の実効性を担保させていくために、本土側搬出県において世論形成と県への働き掛けを強化する。

a) 搬出県に対し、沖縄県の土砂条例に基づく立ち入り調査に対する協力・連携を申し入れる。

b) 搬出県に対し、現在操業中の採石による地先海底を含む自然環境に対する影響、景観毀損について、住民・市民の参加のもとに生態系影響調査を実施し、結果の公表を求める。

c) 土砂供給予定地が「重要海域」に含まれることを活用する。

- ・重要海域を所管する府県に対し、重要海域の環境保全への取り組みを要望していく。

- ・採石業の免許延長に対し、既得権にとらわれず厳に抑制していくよう求める。

- ・採石場地先海域には流出した細粒の堆積による生態系への影響がみられる。

- ・重要海域選定の根拠となった情報を記した「情報票」に照らして、現地でそれを補強する情報を集め、採石場との関連を具体的に調査する。その結果を自治体に申し入れ、市民に知らせる。

採石認可の野放図な延長、これは採石操業区域の拡大を伴い、地域の自然環境や生活環境、海への環境影響等、多くの不安をもたらしている。より広く発信していく。

土砂全協としても、各地の取り組みにおける情報を共有することが重要である。

### 4 土砂搬出計画撤回を求める署名・第三次提出日程設定と署名活動の今後の継続について

16年11月1日に第二回署名提出を行った。

さらに署名への協力を募り、第三次署名提出を目指すことを確認しました。それに合わせ、環境・防衛省と個別に交渉の場を設定していきたい。



時間ぴったりに終了した第4回総会。議長さん・皆さん、お疲れ様でした。

### 5 辺野古土砂全協への加盟について

今年になり普天間爆音訴訟団や島ぐるみ会議南風原から団体会費が振り込みされた。また、沖縄県内各地の島ぐるみ会議（糸満など）から参加の表明がもたらされている。

大変うれしいことではあるが、規約にも関わることであり、総会に審議を求めた。審議の結果、全協の発足・構成が搬出地・搬入地の団体により構成されてきた経緯に鑑み、第4条を以下のように改正することを満場一致で決定した。

改正後 協議会の会員は、搬出地の団体と、会の目的に賛同する協力団体及び個人で構成する。

### 6 辺野古土砂冊子の頒布、さらに広めよう

可能な限り、種々のイベントなどに持ち込み、宣伝・販売に協力を呼びかけ了承されました。

### 7 辺野古新基地建設問題に取り組む各地団体との交流・連携

搬出予定県での採石免許延長、外来生物混入防止対策、重要海域の採石場を論点として、辺野古新基地建設問題に様々な視点から取り組む団体と交流・連携を図り、行政交渉をともに行っていく。


**辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会**  
**第2期(2016.4.1~2017.3.31)決算**  
**並びに次期第3期(2017.4.1~2018.3.31)予算案**

	勘定科目	補助科目	第2期		第3期予算
			予算	決算	
収  入	前期繰越		346,905	346,905	1,696,234
	会費		540,000	597,000	600,000
		団体年会費	90,000	90,000	100,000
		個人年会費	180,000	507,000	550,000
		総会参加費等	270,000	0	0
	事業収入		2,320,000	2,670,030	1,200,000
		集会シンポ等	20,000	206,430	200,000
		辺野古冊子販売	2,300,000	2,463,600	1,000,000
	寄付・カンパ		500,000	700,244	500,000
	雑収入		5,500	14,544	14,100
		雑収入	5,000	14,539	14,000
		受取利息	500	5	100
	辺野古基金助成		530,000	315,150	0
合 計			4,242,405	4,643,873	4,010,334


支  出	外注費		20,000	0	10,000
	機関紙費		1,360,000	1,028,220	1,260,000
		封筒・振替用紙	60,000	58,040	60,000
		印刷費	1,000,000	634,662	800,000
		発送費	300,000	335,518	400,000
	会議費		400,000	382,990	500,000
		総会費	250,000	133,330	200,000
		役員会	0	0	100,000
		集会開催費	150,000	249,660	200,000
	旅費交通費		180,000	86,794	100,000
	通信費		90,000	50,258	40,000
	事務消耗品費		60,000	22,573	30,000
	資料費		3,000	2,210	3,000
	印刷費		30,000	0	0
	支払手数料		3,000	3,456	3,000
	雑費		0	1,200	1,000
	冊子作成費		1,005,648	1,005,648	0
	広告宣伝費		50,000	49,140	10,000
	辺野古基金助成金支出		530,000	315,150	0
	合 計			3,731,648	2,947,639
当期残高(次期繰越金)			510,757	1,696,234	2,053,334

## 監 査 報 告

辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会第2期(2016年度)会計を厳正に監査したところ、帳票書類等正確かつ適正に処理されていることを認めます。

監 査 五 寶 老 基 

監 査

野 田 恵 美 

《2017年5月27日・第4回総会 in 北九州》

## 闘いの根拠を明確にした学習交流集会

辺野古土砂搬出反対熊本県連絡協議会事務局長：生駒研二

「辺野古・高江の基地建設とやんばるの森の世界自然遺産登録は両立するのか？」との桜井邦俊沖縄大学名誉教授の基調講演タイトルに、笑ってしまった。「両立するわけないやん」。ところが…笑ってすむ話ではなかった。この国の政府と防衛省は「両方やる」と言う。両立しないけど両方やりたいのである。話のツボは「それをどうやって阻止するか？」

中緯度にある沖縄の亜熱帯照葉樹林は地球の奇跡。生物多様性のホットスポットで世界自然遺産の有力候補地。登録推進を目指す沖縄県は『生物多様性おきなわ戦略』を策定、希少種の保護が重点施策だ。辺野古新基地建設のための大量の土砂搬入はこの戦略と完全に矛盾。また辺野古・大浦湾の海は知床の海よりも生物多様性に富み、沖縄の宝、世界の宝。新基地の建設は行うべきではないし、国はやんばる国立公園に指定し、世界自然遺産の対象とするべきだ。もちろん今の政府がそうするわけがない。ではどうするか。

「埋め立て承認の撤回」の連続、これしかない。埋め立て承認権者としての知事は、協議すら回避しようとする国に対し承認撤回する。司法を取り込んだ国は撤回を無効化する。すぐに工事中の環境保全対策がなくなると撤回する。国はそれでも強行する。直ちに供用後の環境保全対策で追及しあきらめることなく撤回を繰り返していくのだ。

私たちの顧問、湯浅一郎さんは「生物多様性から見た辺野古土砂問題—懸念される環境汚染と外来生物持ち込み—」の講演で、桜井教授の考えを後押しした。この国は米国のために生物多様性の宝庫＝「辺野古の海」を捨てる—ジュゴンの絶滅も仕方ない—と、『生物多様性国家戦

略2012～2020』も無視し、新基地建設を強行する。最高裁も同じだ。しかし彼らが無視しようと私たちにはこれが武器になる。辺野古も土砂採取地も生物多様性から見た「重要海域」に面しまたは隣接する。土砂採取自体が生物多様性に危機をもたらすことと、その搬出が亜熱帯の沖縄の、「島嶼生態系への外来種の侵入」につながることを確認を各県協力して取り組むことが重要だ。生物多様性の観点から国のあらゆる政策を吟味し、あらゆる生き物が生まれ育った地での主権回復（地方自治の復権）に展望を見た。

最後の全国港湾労働組合連合会の糸谷委員長と諸見事務局長の特別報告「辺野古新基地建設と港湾労働者の立場」は、私たちのハートを打った。

「土砂の搬出・搬入については、各地域の港が使用されることになり、我々港湾で働く労働者は、その埋立工事に加担せざるを得なくなります。新基地建設は軍事強化につながることであり、基地建設に伴う土砂搬入作業は、戦争法反対の立場から、到底受け入れるわけには行けません」との、強く具体的な決意に、会場からの拍手は鳴りやまなかった。

（桜井さんと湯浅さんのトークも素敵でしたが、字数の関係で割愛しました）



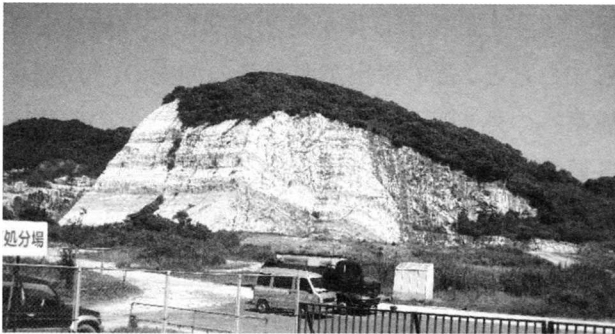
講演の後、質問に答える桜井国俊沖縄大学名誉教授

《2017年5月28日・第4回総会 in 北九州》

# 豊かな自然林の破壊続ける門司の採石視察

水俣市 大嶽弥生

5月27・28日に北九州市で開催された辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会第4回総会に参加した。昨年の天草総会以来の懐かしい人たちとの再会の場でもあった。



搬出予定地ではないが、門司の代表的な採石場

翌28日の現地見学会で配布された「採石業市内認可事業所一覧」には、16カ所の採取場所が記されていたが、その内の12カ所が門司区に集中している。しかし移動中の車中からは、既に閉鎖された採石場跡も幾つか見られ、この地域の採石場の多さにとっても驚いた。一体いくつの山が削られ、そして採石で海が潰されたのだろうか。北九州市の海岸線も殆どが埋め立てられているが、以前はどんな風景だったのだろうと想いを馳せる。

採石場の周辺の山を見れば豊かな自然があり、多くの生き物達の命が育まれる場所だったのだろう。人工林の多い水俣から見れば、自然林が残された山々は本当に羨ましいかぎりだ。しかしその豊かな自然も人間の都合で壊してきたのだ。今ではむき出しになった岩肌を海風に晒し、痛々しく埃っぽい風景が続いていた。

沖縄県は2015年に「公有水面埋立事業における埋立用材に係る外来生物の侵入防止に関する条例」を定めている。オオキンケイギクも特定外来生物に指定されているが、今回の視察ルートで

もよく見かけた。北九州市ではオオキンケイギクの駆除をどのようにしているのか判らないが、繁殖力の強いその種子が採石場まで運ばれ、辺野古への岩ズリに紛れ込むことは容易に想像出来る。しかしそれをチェックする事も除去する事も不可能といわざるを得ない。それは搬入先でも同じこと。



搬出予定地を視察する一行

足尾鉍毒問題と闘い続けた田中正造は、「世界人類の多くは、今や機械文明というものに噛み殺される。真の文明は山を荒らさず、村を破らず、人を殺さざるべし」と残している。近代化を急ぎ、経済発展が成長の証とばかりに走ってきたこの国は、田中正造が危惧していた道を歩んできたようだ。

水俣から不知火海を隔てたその先には御所浦島がある。この島からも辺野古に岩ズリが運ばれる計画になっているが、その島影も無残な姿である。島の人たちは言う。「故郷と美しい自然をそのまま後世に譲り渡し、引き継ぐ事は今を生きる私達の責任」と。その実現の為に各地の仲間と繋がって頑張りたいと再確認した旅だった。

# 《山城博治さん、今治市で講演》

辺野古土砂搬出反対全協共同代表 阿部悦子

5月22日に山城さんをお迎えしての講演会。準備期間が2週間しかなかったにも関わらず、100人もの人の熱い参加がありました。愛媛県は松山中心の中予地方（伊予の予）に対して東側の「東予地方」には沖縄辺野古とつながる運動がなかったのですが、この日をきっかけに「沖縄とつながる愛媛県東予の会」が発足し、次なる活動（「標的の島」の上映など）もスタートしています。

## 基地反対も言えなくなる

沖縄県名護市辺野古への米軍新基地建設反対運動を率いる沖縄平和運動センターの山城博治議長(64)が、今治市南宝来町の市中央公民館で講演した。組織犯罪を計画段階で処罰可能とする「共謀罪」の成立要件を改めたテロ等準備罪を新設

### 今治で講演

する組織犯罪処罰法改正案について、「共謀罪」が成立したら基地反対も言えなくなる」と危機感を募らせ、「この国を戦争国家にさせないため、国際世論を巻き込んで団結を強めよう」と呼びかけた。  
【成松秋穂】

沖縄・山城さん

### 「共謀罪」に危機感

「たまたま（抗議行動の）座り込みの現場で私の話を聞き拍手を送った人まで、根こそぎ捕まってしまうことになりかねない」。集まった市民ら96人を前に、山城議長は警鐘を鳴らした。

昨年10月、沖縄県東村高江の米軍北部訓練場のヘリコプター離着陸帯（ヘリパッド）建設現場近くで有刺鉄線を切断した疑いで、県警に逮捕された。その後、傷害や威力業務妨害などの罪に問われて5カ月間勾留され、今年3月に保釈された。

取調官は「共犯」「共謀」という言葉を頻繁に使ったという。

「映像に映っているこの人物は誰だとか、どこから来たかとか聞かれ、私に『共謀』したということ、たかさんの逮捕者を出すつもりだなど思った」。山城議長はそう振り返った。「今は実行犯とされた者の逮捕にとどまっているが、法案が成立すれば、テロ対策ではなく政府に反対する多くの市民の抑圧に使われる」と強調した。

山城議長の勾留を巡っては、国際人権団体「アムネスティ・インターナショナル」が早期釈放を求めるなどして

いた。来月にスイス・ジュネーブの国連欧州本部で開かれる国連人権理事会でスピーチする予定の山城議長は「私たちは非国民でもテロリストでもなく、暮らしと命を守るため、ふるさとに再び戦争の脅威を持ち込むなど、普遍的な当たり前のことを求めているだけ。自信を持って国際社会へ訴えたい」と力を込めた。

政府は4月、辺野古新基地の護岸工事に既に着手している。しかし、山城議長は「折れる必要はない。辺野古の海底は軟弱で、工事は大幅な修正や変更を迫られている。団結し続けられれば、必ず潮目が変わるときは来る」と熱く語りかけた。

講演会を主催した「今治町づくりネットワーク」の阿部悦子代表(67)は、辺野古の埋め立てに使われる土砂が香川県の小豆島や北九州市など西日本から多く運ばれていると指摘し「私たちが加害者にならないためにも、学習会などを続けたい」と話した。

「『共謀罪』が成立すれば基地反対も言えなくなる」と危機感を募らせる山城博治議長



### 来月、国連でも訴え

## 《天草と辺野古の海を守る連続講演会》

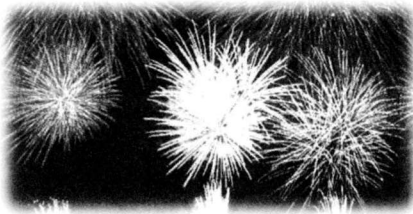
# 御所浦の問題は不知火海(熊本県)全体の問題だ

辺野古土砂搬出反対熊本県連絡協議会事務局長：生駒研二

辺野古の海を守る闘いは、ふるさと【天草】の海を守る闘いとなった。御所浦島の採石場の大きな穴（直径200m弱）に、製鋼スラグや浚渫土砂が搬入されているのだ。「御所浦をゴミの島にするなー！」と、島人は声を上げた。森恵慈まちづくり協議会会長を中心に島人はまとまり、採石業者の動きをチェックし、記録に残し、県へ働き掛けを強めている。

水俣病で悶え苦しんだ御所浦に、今度は製鋼スラグが重くのしかかる。「この問題を御所浦だけに背負わせてはならない。不知火海（熊本県）全体の問題だ」と、私たちも3月23日『（有）山口海運の岩石採取計画と沖縄県辺野古への御所浦採石場の岩ズリ搬出に関するお願いと質問書』を、蒲島県知事へ提出した。さらに『天草と辺野古の

海を守る連続講演会』を企画する。熊本市（4月22日）・八代市（5月13日）・天草市（5月21日）・水俣市（6月17日）・宇城市（7月8日）。森恵慈氏の講演を中心に、熊本では仲村未央さん（沖縄平和運動センター副理事長）、天草・八代・宇城では私が沖縄の動きを紹介する。水俣では緒方正人さんが『女島から御所浦の採石場を見つめ続けて思うこと』と題し、不知火海の自然と人のかかわりのやさしさと削り取られていく御所浦の悲しみを、懐かしい言葉で語られた。御所浦では6月20日、まちづくり協議会主催で中地重春先生の『製鋼スラグのどこが問題かーリサイクルという虚構』の講演会も開かれた。県への質問書の回答もやっと届いた。これから第2幕の幕開けだ。



天草市御所浦町の採石場  
付近の海について話す緒  
方正人さん=水俣市 6/18



辺野古埋め立て  
土砂採取に反対  
水俣市で講演会

沖縄県名護市辺野古への米軍普天間基地飛行場移設に伴う、天草市御所浦町での埋め立て用の土砂採取に反対する講演会が17日、水俣市公民館であった。2015年12月に辺野古を視察した菅北町の漁師緒方正人さん(63)が「沖縄の米軍基地問題も御所浦も、暮らしている人の自治が無視されている」と指摘した。

講演会は、辺野古へ

の土砂搬出に反対する県連絡協議会主催で、市民ら約50人が出席。御所浦まちづくり協議会の森恵慈会長(69)が県や採石業者などとの交渉の経緯を説明し、「協議会では、基金を取り崩して裁判もやむなしという考えだ。これからも各地で活動し、闘っていく」と語った。

緒方正人は「採石場の沖は潮目ができる場所、漁をするのに好きな場所だった。だが、長年取れていたタチウオも減った」などと話した。（山本遼）

17.6.18 熊本日日新聞



# 《環瀬戸内海会議第28回総会 周南市で開催》

## 土砂搬出予定地・黒髪島視察

環瀬戸内海会議事務局長 松本宣崇

環瀬戸内海会議第28回総会が、「辺野古に土砂を送らせない！」山口のこえのご協力を頂き、周南市で開催されました。

山口のこえの皆様には、紙面を借りてお礼申し上げます。

参加された皆様には、総会・シンポを通して、瀬戸内海が抱える様々な環境破壊要因とそれに取り組む活動について、お互いに共有しあう場になったのではないかと思います。

今回周南市で開催したのは、ほかでもなく市内離島・黒髪島が辺野古埋立て用土砂採取地になっていること。

梅雨時、雨が幸い上がった6月25日、隣の大津島から、黒髪島を視察できました。

**辺野古埋め立て 砕石搬出「NO」**  
周南でシンポ

シンポジウム「瀬戸内海で何が起きているか」が24日、周南市銀座の市役所仮庁舎であった。約40人が参加。同市で採取される砕石が、沖縄県宮野湾市の米軍普天間飛行場の移設先とされる、同県名護市辺野古沖の埋め立てに使われる可能性がある問題などについて理解を深めた。



！山口のこえの大きな声で「谷正穂代表(63)は、周南市黒髪島と防府市向島の砕石が、辺野古埋め立てに使われる可能性がある」と説明。「単に反対と要を説いた。」

シンポジウムは市民団体「環瀬戸内海会議」(岡山市北区)が主催。再稼働した四国電力伊方原発3号機(愛媛県伊方町)や、瀬戸内海の生物多様性などについても発表があった。

**P M 25 県内予報**  
25日 少ない  
(日本気象協会提供)

2017年(平成29年)6月25日(日曜日) 山 中 国 新 聞

後日、周南市環境対策課に調査・駆除を要請しました。

大津島にも、各所でオオキンケイギクが咲き乱れていました。(松本撮影)



17. 6. 25 大津島瀬戸浜港にて 土砂搬出予定地の黒髪島をバックに

# 辺野古に土砂を送らない・持ち込ませない！ それぞれのふるさとを守ろう！ 《 7.14～15 沖縄連続学習会 》

辺野古新基地建設に向けた護岸工事が進む大浦湾。しかし、埋め立てには膨大な量の土砂が必要です。その土砂の搬出地である西日本各地で、辺野古に土砂を送らないために多くの人々が立ち上がっています。

生態系の異なる土地からの土砂搬入＝外来生物

の持ち込みによって沖縄の貴重な亜熱帯生態系がかく乱・破壊されるのを防ごうと、沖縄県では土砂条例を制定しました。それぞれのふるさととの生物多様性を守る観点から、辺野古に土砂を送らない・持ち込ませない広域連携の可能性を探ります。

《南部》と き：7月14日（金）午後6時半～

ところ：豊見城市社会福祉センター2階ホール（☎098-856-2482）

共 催：南部島ぐるみ協議会（連絡先：070-5418-8872 豊見城事務局）

《北部》と き：7月15日（土）午後6時～8時

ところ：名護市労働福祉センター1階ホール（☎0980-52-3183）

共 催：本部町島ぐるみ会議／島ぐるみ会議名護（連絡先：090-7586-3348 浦島）

お話① 辺野古埋め立て工事の概要と現段階

北上田 毅 さん

（辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会顧問／辺野古抗議船船長／元土木技師）

お話② 生物多様性国家戦略に依拠して辺野古埋め立てを止めよう！

湯浅 一郎 さん

（辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会顧問／環瀬戸内海会議共同代表  
／理学博士＝専門は海洋物理学・海洋環境学）

資料代：300円

主催：辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会



連続学習会前日、7月13日には下記の日程で、議員学習会が開催されます

## 沖縄県土砂条例を活かすための議員学習会

と き：7月13日（木）午後1：30～2：30

ところ：沖縄県議会4階 執行部控室

辺野古土砂全協から阿部共同代表、湯浅顧問、八記事務局次長が出席します。

沖縄からの便り  
《連載 No.5》

いちやりば  
ちよーでー

行き詰まり焦る政府

## 無謀な計画を断念させよう

へり基地いらない二見以北十区の会 浦島悦子

4月25日、安倍政権は、辺野古新基地建設に向けた埋め立ての第一段階となる護岸工事に着手したと発表。大手メディアも「埋め立て着工」を大々的に報道した。しかし、当日の現場は、砂浜にセレモニー用のテーブルを置き、波打ち際に碎石を入れた網袋5個を置いただけ。その後、敷き詰めた網袋の上に鉄板を敷いて作業車を通し、護岸用の捨て石投入も始まったが、約2カ月経った現在、最初のK9護岸(320m)が10分の1程度の進捗状況と、工事は政府の思惑通りには進んでいない。

5月19日にへり基地反対協が開催した学習会で講師を務めた土木技師の奥間政則さんは、長年、沖縄の海の工事を手掛けてきた体験から、沖縄防衛局が設置した汚濁防止膜が全く用をなさないことを指摘し、また、「たくさんの空洞を持つ琉球石灰岩の海底地盤はもろく、人間で言えば骨粗しょう症のようなもの。その上に巨大なコンクリート構造物を造るのはあまりにも無謀で危険だ。米国では石灰岩の上に建物を造ることを法律で禁じている州もある」と述べた。工事を進めるためには大幅な設計変更が必要であり、設計変更には知事の許可が必要だが、翁長知事が許可する見込みはない。行き詰っているのは政府の方だ。

キャンプ・シュワブゲートから入る作業車の数は次第に増え、多い日は1日3回、石材や資機材を積んだトラック、テトラポット用のコンクリートミキサー車など計100~150台以上が入るが、その多くは基地内にストックされていると思われる。搬入のたびに、座り込む人々を排除・拘束する機動隊がますます暴力的になっているのも、政府の焦りの表れだろう。

沖縄は6月22日に梅雨明けしたが、梅雨末期の大雨で大浦湾の広範囲がこれまでにないほど真っ赤に濁り、工事のずさんさを露呈した。海に投げ込まれる石材についても、伊波洋一・参議院議員から追及された防衛省は「採石場で150秒間洗浄している」と答弁したが、実際にはほとんど洗浄されていないことが、本部町島ぐるみ会議による監視活動で明らかになっている。今後も、座り込みをはじめ粘り強いたたかいで、この無謀な計画を断念に追い込みたい。

### ゲート前日傘カンパのお願い

全国総会の時に、浦島悦子さんから訴えのあった「ゲート前日傘カンパ」は、次の口座に振り込みをお願いします。

沖縄は梅雨明けし、殺人的な陽射しに焼かれながらの座り込みになっています。日傘は必須です。全国の仲間の協力をお願いします。

●郵便振替：01750・8・144158  
辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会  
事務局長 松本宣崇

※必ず「日傘カンパ」とお書きください

こんな傘です



<沖縄と連帯！高江・辺野古に戦争のためのアメリカ軍新基地はつくらせない>

# JFEは辺野古のケーソンをつくるな！

## 三重県民集会 in 津市お城西公園

7.22(土) 14:00～ 集会(うた、トーク、集会決議)  
15:00～ デモ行進

★飛び込み参加大歓迎

主催 辺野古のケーソンをつくらせない三重県民の会  
(連絡先:柴田天津雄 090-6807-1089)

全国から津市に集おう！

私たち「三重県民の会」は、7月22日、津市の真ん中にあるお城西公園で「JFEは辺野古のケーソンをつくるな！ 三重県民集会」を開催します。JFEはゴーサインが出ればいつでもケーソンをつくる準備を整えています。ケーソンの製造を止めれば、辺野古基地はつくれません。私たちは、三重県民をはじめ、全国の人びとに、JFEに辺野古のケーソンをつくらせないように、津市で大きな声を上げるよう呼びかけます。7月22日、津市にぜひ駆け付けて来てください。

辺野古のケーソンをつくらせない三重県民の会 柴田天津雄

### ■編集後記

- ◎この国の首都東京では都議選で、自民党に「お灸をすえる」結果が出たと言われるが、政権の独裁・暴力は、沖縄で極まっている。北九州市で行われた辺野古全協の第4回総会では、政権自らの政策である「生物多様性」を、辺野古新基地埋立てで、土砂採取と搬入の観点から反故にしている点が指摘された。7月13日には沖縄県議会、14日は豊見城市、15日は名護市で、湯浅顧問による連続学習会が行われることになった。元気で役割を果たしていきたいと思う。※10P参照(阿部)
- ◎辺野古土砂全協第4回総会は、北九州連絡協議会が周到な準備を尽くされたおかげで、盛会時に開催することができました。北九州連絡協議会の皆様には厚く御礼申し上げます。今後も辺野古に土砂を送らせないために、ともに頑張っていきましょう。(松本)
- ◎先日「辺野古土砂北九州・第5回沖縄ツアー」のナイトハイクで、木の上で眠っているヤンバルクイナを3回見ました。また、2人に1人が亡くなった沖縄戦の激戦地「前田高地」やオスプレイの墜落した安部の海にも。沖縄に行くたび、たくさんの運動のエネルギーをもらいます。(八記)

#### 《辺野古土砂搬出反対全国協ニュース》

発行責任者…全国連絡協議会共同代表 大津幸夫(自然と文化を守る奄美会議)

阿部悦子(環瀬戸内海会議) hibi\_etsuko@yahoo.co.jp

編集…松本 宣崇(環瀬戸内海会議) nmatchan@ms8.megaegg.ne.jp

八記久美子(門司の環境を考える会) kanpanerura8k@mail.goo.ne.jp

連絡先…愛媛県今治市別宮町9-7-4 阿部悦子 Tel090-3783-8332